

齊藤和也先生・大賀睦夫先生を送る

経済学部長
佐藤 忍

齊藤和也先生・大賀睦夫先生は、2019年（平成31年）3月31日をもって、本経済学部を定年により退職されました。香川大学経済学会では、両先生より賜った学恩に対して、敬意と感謝の意を表するため、本号を両先生の退職記念号とし、ここに謹んで両先生に献呈いたします。

齊藤和也先生は、1985年（昭和60年）7月に香川大学教育学部に助手としてご着任以来、人間論の研究教育に携わってこられました。香川大学は、齊藤先生の在任中の多大なるご功績に対し、本年4月に香川大学名誉教授の称号をお贈りしました。

齊藤先生は、1953年（昭和28年）11月に北海道小樽市でお生まれになり、1972年（昭和47年）4月に北海道大学文類に入学されました。その後、1977年（昭和52年）4月に北海道大学大学院文学研究科修士課程、1979年（昭和54年）4月に同大学院文学研究科博士後期課程に入学されました。そして、1982年（昭和57年）7月に北海道大学文学部助手に採用され、1985年（昭和60年）7月に香川大学教育学部に助手として採用されました。教育学部において、1986年（昭和61年）に助教授に昇任されました。そして1995年（平成7年）に経済学部へ助教授として配置換えとなり、1999年（平成11年）に教授に昇任されました。

齊藤先生の経済学部への配置換えは平成の30年間をつうじた日本の大学教育の大転換と深くかかわっています。と申しますのは、平成3年に大学設置基準の大綱化という日本の高等教育の大転換がありました。これがその後現在へとつながる大学改革の大きな節目となったものです。学部名称の多様化のほ

か、教養科目と専門科目の区分も自由化されました。全国の大学で教養部解体が始まりました。香川大学でも一般教育部の廃止が決定され、その結果として、斉藤先生の経済学部への配置換えがあったわけです。このときに教育学部から経済学部に移動された先生方とともに、——後述するように、大賀先生もその一人です——経済学部は地域社会システム学科を創設しました。唯一無二の個性豊かな経済学部に生まれ変わる大きなきっかけとなりました。斉藤先生の、そして大賀先生の最終講義は経済学部講義棟の改修と重なり、教育学部の教室で実施されることになったのは、偶然とはいえ、たいへん感慨深いところでございます。

斉藤先生は、主としてアリストテレスについて研究されました。たとえば、アリストテレス倫理学の理想的人間関係は善き人同士の友愛関係であることを解明されました。友は自分の存在の意味を分かち合う存在としてもう一人の自己であり、相互に友を認識しつつ最善の活動である学問活動を継続していくことがアリストテレスの幸福のイメージであることを明らかにされました。さらに、アリストテレス自身の描く理想国における支配者たちの究極の幸福が教養的な学問活動にあり、その活動が閑暇（スコレー）を持つ有徳な人間同士の友愛関係の中で遂行されることを解明されました。

斉藤先生は学部・大学院の演習では多くの有能な卒業生を世に送り出すことで、人材育成に貢献されました。学部教育において「人間論」、「ヨーロッパ思想史」などの専門講義科目を担当し、演習科目「社会思想」では、毎年、多くの学生の卒論を指導されました。全学共通科目においては「倫理学」、「ギリシャ語初歩」を担当されました。

管理運営面では、一例として、平成19年4月より平成22年3月まで、及び平成24年より平成25年3月まで経済学部副学部長を、平成26年4月より平成28年3月まで地域社会システム学科長を務められました。さらには、平成23年度から平成29年度まで共通教育コーディネーターを務め、指導的な役割を果たされました。

経済学部は定年後も引き続き科研費助成事業の研究を継続する教員への研究

室貸与を今年度から開始することとしましたが、齊藤先生がその第1号です。ご定年後も科研費による研究を継続されるお姿は、アリストテレスが理想的な生き方としたスコレーそのものです。

大賀睦夫先生は、1984年（昭和59年）4月に香川大学教育学部に助手としてご着任以来、政治学や観光行政学などの分野で研究教育に携わってこられました。香川大学は、大賀先生の在任中の多大なるご功績に対し、本年4月に香川大学名誉教授の称号をお贈りしました。

大賀先生は、1954年（昭和29年）2月に福岡県筑後市でお生まれになり、1972年（昭和47年）4月に九州大学法学部に入学されました。その後、1977年（昭和52年）4月に九州大学大学院法学研究科修士課程、1979年（昭和54年）4月に同大学院法学研究科博士後期課程に入学されました。そして、1982年（昭和57年）4月に九州大学法学部助手に採用され、1984年（昭和59年）4月に香川大学教育学部に助手として転任されました。教育学部において、1986年（昭和61年）に助教授に昇任されました。そして1995年（平成7年）に経済学部へ助教授として配置換えとなり、1997年（平成9年）に教授に昇任されました。

大賀先生は、先述のように齊藤先生と一緒に、1995年に教育学部から経済学部へ異動されました。この異動は平成3年の大学設置基準の大綱化という日本の高等教育の大転換によって引き起こされ、今日の経済学部の礎となったことは前述のとおりです。

大賀先生のご専門は政治学でございますが、先生は経済学部への移籍をきっかけにご自身の研究分野、研究内容についても大胆にメスを加えられています。研究分野のシフトはわれわれにとってきわめてリスクが多く、誰もが逡巡します。自分の得意とする狭い分野に閉じこもるほうが楽です。しかし大賀先生は異なる選択をされました。観光分野に足を踏み入れられました。四国遍路の研究に取り組みられました。スピリチュアル・ツーリズムの分野を開拓されました。

四国遍路は人の心を育てるスピリチュアル・ツーリズムであるという視点を設定し、そのような視点から遍路研究を続けてこられました。そのような見方は、宗教心理学的要素を多く含んでいるスウェーデンボルグの思想や空海の思想にもとづくものです。「四国のスピリチュアル・ツーリズム」(2008)、「四国遍路の現代性」(2010)、「四国遍路におけるメタファー思考について」(2011)、「四国遍路による人格形成」(2018)などの論文に結実しています。先生の経済学部における遍路研究の歩みはそのままツーリズムコースの発展、観光・地域振興コースの誕生へとつながっていると思います。

大賀先生は教育面においては、一例として、政治学原論、政治学概論、政治文化論、日本の政治、アメリカ政治、アメリカ社会論、観光行政学、観光と政治、などの科目を担当すると同時に、ツーリズムコースの教員たちと教育 GP「現場主義に基づく地域づくり参画型教育」(平成 20 年～平成 23 年)に取り組み、小豆島八十八カ所霊場の道直し事業や歩き遍路の実践を取り入れた教育を行われました。また大賀先生の演習は経済学部のなかでも人気ゼミであり、多くの有為な人材が輩出されました。

管理運営面においても、大賀先生は多大な貢献をされました。地域社会システム学科長(平成 18 年, 平成 19 年)、学生生活委員長(平成 22 年)、研究企画委員長(平成 24 年, 平成 25 年)、経済学部副学部長(平成 25 年, 平成 26 年)などを歴任し、指導的な役割を果たされました。

社会的活動においては、高松大学等において非常勤講師として人材の育成に貢献されました。また、四国経済連合会、『おへんろつかさ』養成講座、さぬき市『空海セミナー』、三木町サテライトセミナー等で講師を担当し、研究成果の社会への還元に努められました。

経済学部は昨年度から 1 学科体制の新しい経済学部となりましたが、それは 95 年からスタートしたこれまでの 3 学科体制の成果と実績を踏まえて、いいかえれば斉藤先生、そして大賀先生の働きによって、経済学部として一体化したわけでございます。経済学部の個性豊かな発展は平成の終わりとともに大きな

転換点を迎えましたが、齊藤先生、そして大賀先生の定年退職はその転換をタイムリーに代弁しているように思います。

本学の研究教育，管理運営，社会貢献のいずれの活動においても，上述してきたように多大なるご貢献をいただいた両先生を，定年退職とはいえ，失うことは経済学部にとって誠に大きな痛手です。在職中にそれぞれの分野であげてこられた業績からすれば，退職されてからも先生方には地域をはじめ様々な方面から要請があることはいうまでもありません。引き続きのご活躍，ご健勝を祈念いたしますとともに，私ども後輩のために，今後とも，ご指導，ご鞭撻くださいますよう宜しくお願い申し上げます。